

児童自立支援施設における学習ボランティアの実践を通じた学習・生活支援

Practical support by studying volunteer to assist delinquent juveniles with studies and daily life in care institution

豊住 伸夫 (Nobuo Toyozumi) 指導：川名 はつ子

1. 問題と目的

児童自立支援施設とは、不良行為をした児童や、家庭環境等から生活指導を要する児童を入所または通所させ、必要な指導を行って自立を支援する児童福祉施設である。

本研究では、児童自立支援施設X学園において、実際に、学習ボランティアとして、児童や職員の生活場面に入り関わる中で、筆者と児童や職員との関わりを記録し考察することで、学習ボランティアが児童の自立支援においてどのような効果をもたらすか、より良い支援のためには何が求められるのかを検討することを目的とする。

2. 対象と方法

〈調査対象〉

関東の児童自立支援施設X学園Y寮において生活を送る職員および児童

〈調査期間〉

2008年9月から2009年6月の計26回参与観察を行った。

〈調査方法〉

Y寮において参与観察を行い、フィールドノーツを作成した。

〈分析方法〉

施設や児童にとってボランティアが機能的に関与していると考えられた場面を抜き出し、分類して整理した。

3. 結果と考察

今回の調査から、重要だと思われた学習ボランティアの役割として、以下の機能が抽出された。

①学習のサポート

学習ボランティアが児童の学習を動機づけ、個々の児童毎の学習指針・学習計画を立てることが重要と思われた。また、指導の過程では、児童の学習の進捗状況を継続的に確認し、学習の進捗状況に合わせた指導を行うとともに、児童が以前に在籍していた学校から現在通う施設内学校への学習の橋渡しを行うことも必要である。

児童自立支援施設に入所する児童は、学習に対する挫折感を抱えているケースが多いことから、特にこうしたことを意識する必要があると考えられた。

②情緒的サポート

職員とは異なるタイプの人間が寮にすることで、寮の雰囲気改善される側面があった。また、学習ボランティア

という立場を生かして施設の指導という文脈から離れた関係性を構築することができ、児童の気持ちをより素直に受け止めて支援することができると考えられた。

学習ボランティアは、職員が児童に職務や責任を伴う関係であるのに対して、いわばお兄さん・お姉さん役として児童を情緒的にサポートできる可能性がある。

③生活のサポート

学習ボランティアは、職員の生活指導を第三者の立場から補強できるという側面がある。また、児童の得意な能力を生産的な社会活動に向けていく役割を果たすことも可能ではないだろうか。

学習ボランティアは職員と連携しながら、児童が自立していくために必要な生活能力を育むのに役立つことができる。

④職員とのスムーズな連携

施設では、職員は学習ボランティアに対してスーパーバイザーの役割を担う。一方、学習ボランティアは職員と相談しつつ第三者の視点から、職員の処遇の正当性を担保する側面があった。

4. 総合考察

本研究は、児童自立支援施設における学習ボランティアの導入という先駆的な取り組みを対象とし、長期の頻回にわたるフィールドワークを通して児童の学習および生活に役立つ機能を具体的に描き出したという点において意義があると考えられる。

本研究の限界として、児童のプライバシー保護の観点から、個々の児童のケースに踏み込みながら、その詳細を具体的に外部に公表することができなかった点が挙げられる。

児童自立支援施設の実践は全国58施設に58通りあると言われ、ボランティアの受け入れ体制も施設毎に異なっており、X学園以外の施設においてどのような効果が挙がっているのか比較検討し、どのようなボランティア受け入れ体制が望ましいのかを検討しつつ現場の実践にフィードバックしていくことが求められるだろう。